

34年ぶりの連覇

「今までで一番硬くなった」

谷川とのマッチレースを制す

2オーバー 146

榎 隆則（大分中央、64歳）



34年ぶりの偉業である。過去に2人しかいない九州シニア選手権連覇。1973～76年の坂本稔（博多）と1986～89年の野見山博（古賀）。50回を超える大会で2人だけというのは、いかに連覇が困難かが分かる。

「安堵感というか、光栄ですね。優勝はいいもんです」と榎がしみじみと語った。昨年の

初優勝は初日こそトップスタートを切ったが、最終日の前半で追いかける立場となり、相手が崩れての逆転V。今回は初日、出場選手中唯一の60台となる69をマークして一度も首位を譲ることなく、ゴールに飛び込んだ。ただ、最終日の18ホールは胃が痛くなるような展開となった。だからこそ優勝の弁も”しみじみ”となったのである。

最終組のライバルとなったのは昨年の九州ミッドシニアの覇者・谷川富夫（つくも）。前半を終えて榎も谷川も2オーバー38で、その差「2」は変わらない。折り返すと、榎が11、13番でボギーを叩いて、両者は並ぶ。14番で谷川がスコアを1つ落とすと、榎も付き合うように16番をボギーとして、再びタイに。17番ミドルで榎が残り90ヤードの第3打を1mにつけ、パーを拾ってピンチを切り抜ける。「あれが大きかった」と渾身の第3打となった。そして2人は2オーバーの同スコアのまま最終18番ロングへ。第3打をピン上5mにつけた榎に対し、谷川はグリーンオーバー。アプローチも2・5mほど残り、パーパットも外す。榎が2パットのパーにまとめて、谷川を1打差でかわした。

「今までのゴルフの中で一番硬くなったのが自分でも分かった。特にパットが。心臓が弱いですね。やはり追いかける方が楽ですね。谷川さんはしぶといゴルフをします」。確かに苦しいゴルフではあった。でも、勝った。そのあたりが強さの証明だろう。

榎は来年65歳を迎える。この年齢からミッドシニアの仲間入りをするのだが、その前年にあたる今年から日本ミッドシニアのタイトルを目指そうと、再び体作りに励み始めた。毎週2度ジムに通って、主に下半身の強化に努めている。「ストイックな時間を過ごし、ゴルフに向けてのモチベーションが上がる。持久力もついてきたし、メンタルに向けても意欲が出てきたというか」と最も大事な「やる気」に火がついた。



今年の日本シニア選手権は10月、佐賀県多久市の佐賀クラシックGCで開催される。同じ九州内で行われるのは強み。大分からだといふだけで練習ラウンドが豊富にできるからだ。

「日にちもあるし、ラウンドも重ねられる。とにかく秋までにパットを強めに打てるように修正します。上位争いをしたいですね」。2016年に日本シニアに優勝し、九州シニアを連覇。大分県のアマチュアゴルフのリーダー的存在は、年を経るごとに円熟味を増す。狙うは7年ぶりの日本チャンピオン。モチベーションは上がるばかりだ。

《UMK C C》

